



TITLE:

「ディベート(VS関学)」 報告

AUTHOR(S):

柵山, 順子

CITATION:

柵山, 順子. 「ディベート(VS関学)」 報告. 岩本ゼミナール機関誌 1999, 4: 93-95

ISSUE DATE:

1999-03-24

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/56873>

RIGHT:

『ディベート（VS 関学）』報告

関学班班長：さくやまじゅんこ

1. テーマ

テーマ：今後の中国の経済発展にとって、今すぐ自由貿易体制に移行すべきか、それとも猶予期間をおくべきか

中国の WTO 加盟が注目されているということでこのテーマになりました。しかし、WTO の枠組みで考えると、対中セーフティーネットやアメリカの最恵国待遇獲得というように話が広がりすぎるということで、あえて WTO の枠組みを無視しました。

また、保護貿易体制を維持し続けるということは、現在の世界経済を見る限り非現実的である、加えて条件や時期が整えば自由貿易の恩恵は本来とても大きいということから保護貿易を自由貿易体制に移行するまでの猶予期間というようにとらえました。

議論の軸としては

- * 比較優位に基づく自由貿易、政府の幼稚産業保護策・経済特区の設置などが存在する保護貿易どちらが国の発展に役立つのか。
- * 計画経済から市場経済に移行するには、市場の力によるショック療法、政府による改革どちらがうまくいくのか。

という2点を考えました。

立場は、以下のようになりました。

関学：自由貿易体制にすぐに移行すべき
京大：政府による改革の後に自由貿易体制に移行すべき

2. 両校の主張

【関学】

- ・ 中国は、リカードやヘクシャーオリーの比較優位に基づく生産をした方が利益が大きい。
- ・ 保護政策を取るとそれが既得権益化してしまい、結局成長できなくなる。
- ・ 将来成長する産業を正確に選べるほど政府は有能ではない。
- ・ 国内を解放してショックを与えなければ国内改革は進まない。
- ・ 自由貿易体制に移行することで外資の更なる流入がある。

【京大】

- ・ 社会主義時代の名残で中国には重工業産業が多数存在する。それらは、まだ国際的な競争力を持っていないが、統合・合併により残した方がいい。そのため、市場メカニズムが機能していない現状では、政府の保護が不可欠である。

- ・社会保障制度も整っていない状況で、企業が倒産すればその社会不安の大きさは計りしれないものとなり、国内改革の進行を妨げる。
- ・発展していくためには、安定した社会が必要である。

3. 当日の議論

【関学より】

1. 中国政府の能力について

…汚職に関する新聞記事を使って政府の失敗について言及されました。

「汚職と政策能力の関係は？」と京大側が主張したところで終わりました。

2. 幼稚産業保護論について

…中国が大国であるため報復があるということを言及されました。

時間切れのため、ほとんど話す間もなく終わりました。

【京大より】

1. 何に特化するのか

…質問の時間で得た答えをもとに、労働集約財への完全特化なのか、資本集約財も含めた不完全特化なのかという点で矛盾をつきました。水平貿易と垂直貿易を、関学側が混同していたことが原因でした。

2. 経済特区について

…経済特区は、すぐにはなくせないという答えを導き、今すぐに自由貿易体制に移行しない方がいいと言う答えを導き出しました。

(選択的な優遇措置は自由貿易に反するというのが前提でした)

4. 議論を振り返って

本来、論点になるべき点ではなく両校ともに小手先の議論になってしまったと思います。具体的にあげれば、関学側からは、中国において市場メカニズムの浸透が進んでいること、政府の失敗、産業再編成における現実性についてもっと京大に言及すべきであったし、自由貿易のメリットについてもっと力強く主張するべきであったと思います。

京大側からは、急激な体制変化がもたらす影響を他国の例を使って言及すべきであったし、東アジアにおける政府主導型開発の成功、中国における保護の効果国内改革の実績にみる政府の能力、安定した社会の必要性というものについてもっと主張すべきであったと思います。

また、収穫逓増産業の獲得という点についても議論がなされるべきだったのではないかと思います。

5. 終わりに

今回のディベートが本質から離れてしまったのは、両校の勉強不足が原因だったと思

います。そのような結果を導いたのは、交渉の遅れでありこの点に関して本当に申し訳なく思います。「今年は、友好的にいこう!」ということで、何度も会い、毎日のように電話で話し、お互いが考えていることを交換してきました。しかし、私個人の見解である程度決定して良い京大と班員みんなで答えを出す関学との意志決定方法の違いや私自身の勉強不足による不明確さなどにより、意志疎通がうまくできていなかったことが問題でした。

当日も含めディベートの成功には、両校の友好関係は必要不可欠です。しかし、加えて交渉するには知識が必要であり、テーマを決める時にお互いもっと勉強して臨むべきだったと思います。来年は、大枠だけ早く決めてしっかり勉強してから交渉を開始して欲しいと思います。

ここまで、暗い反省ばかりを書いてしまいましたが、今回のことで私はいろいろな方に助けていただきました。いつもほめて下さる先生、いつも厳しい藤嶋さん、いつもたくさん資料を持ってきて下さる柴田さん、笑いもたくさんすがしさん、万屋清谷さん、中国と言えば閻さんをはじめとする留学生の方々、平和をくれた平井さん、賢い遠藤くん西丸くん、心のオアシスいく、頼りない私を支えてくれた2回生のみなさん、そしていつも私の隣にいてくれたゆりちゃんみなさんの愛情がなければ私は狂っていたと思います。

私にとってこのディベートは、本当に楽しくつらく楽しい物でした。みんなで一つのことをやり遂げるのは、とても難しいことですが楽しいことです。うまく書けません但大学生活に入ってみんなで何か一つのことを成し遂げるということがとても少なくなり、ともすれば個人の世界になってしまいがちです。突き詰めて勉強することもすごく大切です、能動的に取り組むということもとても大切です。しかし、私はこのインゼミを通してもっと大切なことを学んだ気がします。それを言葉にすることは、まだ私には無理なのですが、みなさんがそれぞれに何かを感じていてくれれば…と願います。

最後になりましたが、未熟な私にこのような機会を与えてくれたこのゼミと支えて下さったみなさま、楽しいコンパやディベートを用意して下さい関学のみなさま、楽しい関学3回生のみなさまに感謝しつつこの報告を終わらせて頂こうと思います。本当にありがとうございました。来年度も両校にとって実り多いインゼミが行われることを祈ります。

6. 結果など

日程：11月13日(土) 場所：関西学院大学 結果：3-0 京大の勝ち

京大参加メンバー(3回生) 遠藤・西丸・吉川・柵山

(2回生) 藤中(智)・藤中(康)・斉藤・酒井・張